

執筆者紹介（掲載順）

廣田 收…………… 本学教授
 佐伯 真…………… 青山学院大学教授
 生形 貴重…………… 千里金蘭大学教授
 柳田 洋一郎…………… 梅花短期大学助教
 谷村 茂…………… 京都市立西京高等学校（定時制）教諭
 四重田 陽美…………… 大谷女子短期大学助教
 水谷 巨…………… 同志社女子中学・高等学校教諭
 生井 真理子…………… 同志社女子大学非常勤講師
 滝沢 優子…………… 本学大学院博士後期課程在学生
 山村 孝一…………… 同志社大学非常勤講師
 田中正人…………… 神戸国際中学校・高等学校教諭
 松林 靖明…………… 甲南女子大学教授
 西村 知子…………… 本学大学院博士後期課程在学生
 吉田 桂子…………… 本学大学院博士前期課程在学生
 稲田 秀雄…………… 山口県立大学教授
 邊 恩田…………… 社団法人大阪国際理解教育研究センター研究員
 小 林 加代子…………… 本学大学院博士後期課程在学生
 駒木 敏…………… 本学教授
 岩坪 健…………… 本学教授
 山田 和久…………… 本学教授
 神谷 勝広…………… 本学助教
 田中 勳儀…………… 本学教授
 西川 貴子…………… 本学専任講師
 藤井 銅正…………… 本学教授
 藤井 俊博…………… 本学教授
 石井 久雄…………… 本学教授
 西尾 勝彦…………… 近畿大学附属高等学校・中学校教諭
 翻刻の会…………… 本学学部在学生と本学教授山田和人

編集後記

本号は、加美宏教授退職記念号である。「同志社国文学」は、第五四号に玉村文郎教授退職記念号を出して以来、第五八号が向井芳樹教授退職記念号、そしてこの第六二号と、二年ごと、すなわち四号ごとに退職記念号を出してきたことになる。これで、国文学専攻および国文学会を長らく支えてこられた、いわば第二世代の先生方が、全て御退職されることとなった。来年度から文学部が改組され、文化学科国文学専攻が国文学科として新たに出発することを思い併せると、まさに節目の年の感慨が深い。

思えば本年度は、国文学専攻創立五〇周年、国文学会設立四〇周年という、もう一つの節目の年でもあった。前号で論文数四二本にも及ぶ大部の記念論文集を出したばかりで、本号の寄稿に関しては若干の不安もあつたが、思いの外に多くの論文が集まった。これもひとえに加美先生のお人柄によるものであろう。

本号は、加美先生のご専門分野である中世の文学を扱う論文の部と、国文学専攻現スタッフを中心とする執筆者の部との、大きく二部で構成されている。前者には、多くの卒業生の方々が論をお寄せくださった。在学生も意欲的な論を発表している。また後者についても、専攻スタッフが全員揃って執筆するという、一つの「快挙」を成し遂げた。これが同志社大学国文学会の底力であると、今は大きく誇っておきたい気がする。

なお、編集にあたっては、加美ゼミの大学院博士後期課程在学生である小林加代子さんの多大なる協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。